牛河内地区の概要

牛河内地区は、太古船城地区が湖沼地帯であったころから、ほぼ中央を流れる水系の両側に草地肥沃地があったと推測される。五台山系の横峠山麓にあり三方を山に囲まれ南に扇状地に拓けた日当たりのよい静かなところで、夏でも鶯が鳴き、大気、水共に清く美しい緑の自然が残っている。

地名の由来

春日町には、約２万年前より人類がいた形跡がある。おそらく縄文期またはそれ以前に由良川（あるいは加古川？）水系より遡（さかのぼ）り、開拓した集落に牛がいたと言う説。
（氷上の地名考）
河内は、水系集落の意である

地域の氏

足立氏

天正六年に落城した丹波山垣城（現青垣町）の城主、足立基治氏（正確には、基治一子良左衛門基英）がここに隠棲した記録があり地区内の殆どが足立の姓で、足立権現社を祀っている。

安田氏

丹波史によれば、現京都府船井郡の井尻城主　安田若狭守の子孫が、現氷上町桟敷に慶長十年秋桟敷野を開拓したとある。その一部が新しい草地を求めてこの地に移住した。

牛河内地区の文化人

足立野卯

俳人である。船城村牛河内に生まれ、本名を足立左衛門といい、幼少より文学を嗜(たしなみ)み、亀山藩の歌合せに臨んだこと等で知られている。俳句を良くし、三面山を以って囲まれた住宅に名も竈庵(そうあん)と称し、地方において評判が高く、近郊の神社仏閣の額面の選者として、広くその名を知られ交遊は、各地に遍(あまね)くて、明治２５年に年９０を以って没した。現在は、牛河内にその家系はない。

遺句

鋤別けて春の凍待つ畠かな

雪散るや余所の家鴨が門へ来る。

牛河内の古墳

牛河内の古墳群

牛河内集落の西の浅い谷を挟んだ南北の丘陵に４基の古墳が存在する。北側丘陵の斜面には、１号墳、少し間隔を取って２・３号墳が、隣接する形で、立地し、南側丘陵の平坦面に立地する。墳丘の痕跡を残すが、それぞれ崖壊が著しい。

牛河内足立古墳

全国遺跡地図においてその存在が知られているが、現在正確な位置が特定されていない。

牛河内下地古墳

全国遺跡地図においてその存在が知られているが、現在正確な位置が特定されていない。

牛河内浄光寺古墳

牛河内集落の北の深い谷の傾斜面に立地する円墳上の遺構である。

賀茂神社

祭神は、京都上賀茂神社と同じである。鎌倉時代、北條時頼公の時上賀茂より勸請と、ある記録にはあるが、確たる資料はない。ただこの頃から戦国時代までは、京上賀茂神社の荘園であったことは、間違いない。

当時の建築年代は不詳なるも本殿の建築様式を見ると鎌倉時代の感もするが、蔀戸（しとみど）が半蔀（はじとる）に作られていることから江戸時代中期と考えられる。刻板によれば元禄七年（１６９４年）の銘がありこれは確かなものである。時に京上方では、加茂葵祭再興の年であり　また松尾芭蕉没年である。

境内社の御神体

- 本殿
  - 賀茂大明神
  - 貴船大明神
  - 神刀　　大小
- 八幡社
  - 八幡大明神
  - 春日大明神
- 荒神社
- 天神社
- 愛宕神社

八幡神社

荒神社

天神社

愛宕神社

じょうこうじ
浄光寺

常泉和尚が薬師如来を本尊とし同上を開いたのが始まりである。永正三年（1506）今から４９８年前室町末期のことで、当時は、真言宗であった。

後世、村人はここを常泉谷と呼ぶようになった。

その後荒れ寺となり、仏事は、万松寺・安養寺に頼っていた。それを中興したのが足立四良左衛門基英である。

寛永１２年（１６３５）村人常泉寺を立て安養寺より文龍僧を迎える。当時の開基は、文龍の師、万外和尚となっている。その後、圓通寺の本末寺関係となり、瑠璃山浄光寺と称し、禅寺となる。

足立権現社

丹波山垣城の城主
足立基治氏に
ゆかりがあり
足立氏の株講が
毎年行われています。

毘沙門堂（びしゃもんどう）

往古牛寺にあったものを、享保３年（１７１８）勧請者・足立甚右衛門之尉墓之黒井袖光寺・山木金兵衛之尉によって現地に移す。大工棟梁は、北油良藤原末孫である。
毎年３月の祭りの前日に村隣保年交替で参道を掃除し、お祭りの日には村人全員がお参りし籤引き等の行事がある。

毘沙門天

多聞天のことであり北方の守護神である。仏を守る役割を果たすため武装して憤怒の相となる。

普通は、右手に宝棒の戟（げき）を、左手には宝塔を持つ。当村の立像は、兜跋（とばつ）形式で、足元に地天と邪鬼を踏まえてる。

道知辺（みちしるべ）

太古縄文期から当町は、由良川・加古川両水系の接点であり　また弥　生期には、春部里長と明日香中央政権を結ぶ道があったと考えられるが、急速に道が発達したのは西国霊場巡礼が始まった頃からである。当時春日町の中心は、国領巡礼橋次に的場、園部である。つまり、京方面、摂津方面、播磨書写街道、丹波成相街道、但馬方面の要である。それは、現在残っている道祖神・道しるべの類で、郡内８０余碑の内当町内が半数の４０数碑あることからも推測できよう。町内で一番古いものは長谷に現存する遍路供養碑で、貞享２年（1685）のものである。

牛河内坂は、氷上町由良へと結ぶ近道として重要な道であった。現在、親地蔵と子地蔵の間にある「みぎ　びしゃもん　ひだり　さ志き（桟敷）」の石仏は昔は現在の６７番地の南東角にあったもので、当部落にとって大切な文化遺物の一つである。

地蔵尊（じぞうそん）

お慈悲深く子供を守る地蔵菩薩のことで、大地のごとく力を蔵するという意味。字、襷（たすき）にある地蔵は、大小合わせて８碑あるが、最も新しいもので、宝暦３年（1753）である。地域の住民はもちろんのこと、遠くからもお参りが絶えない。淨千谷牛河内坂新道かかりの野仏三碑は、所謂（いわゆる）一升仏と言うのであろう。俗に一升仏というのは、地蔵菩薩信仰の対象として江戸中期に祭られたものが多く家内安全・無病息災・道中安全を祈願し、当時米一升くらいの代価で立った。また身内の者や知人の供養のために堂坊の傍らや道端に祀って衆生の回向を乞うた。

第５回

平成２６年度船城歴史探索街道

牛河内自治会

平成２６年１０月２６日（日）

資料作成

牛河内自治会